視点

県医師会の“組織強化”について

福島県医師会副会長
矢　吹　孝　志

1　始めに

県医師会は日本医師会（以下、日医）、郡市医師会（以下、郡市医）を合わせた３層構造の中間に位置している。最近その位置の重要性が大きく取り上げられている。その理由は郡市医では医師の高齢化と開業医減少などによる活動の低迷化であり、日医においては現状の会員数では政治家との連携を求めたロビー活動の成果が不十分であることを認識したためである。このことから郡市医と日医は県医師会に対し、今まで以上に重責を担う立場として、３層構造を盤石化する役割を期待し始めている。

３層構造の中でそれぞれがカウンターパートを持ち、郡市医は市町村、日医は厚労省を主とする国、県医師会は県と対峙あるいは交渉し、それぞれの役割を果たしてきた。しかし、最近郡市医においては医師の高齢化と併せて会長交代や若手会員の関心の多様化など統率性に不安が生じてきている。また、日医は、今年度の診療報酬改定率の結果を見ても、決して満足のいくものではなく、政治家へのロビー活動の充実度と医師会自らの総力を高めなければ適正な医療を勝ち取ることが困難であることを結論付けた。その結果“数こそ力”の御旗を掲げて研修医や勤務医など若手医師の入会を強化するように、県医師会へ積極的な協力を要請し始めている。この日医の長年に渡る国への対応は時代の為せる業であり、その時々に精一杯の努力をしてきたことには評価される点が多く、無関心であり続けた会員こそが、“医療とは何か”、“医師会とは何か”などを自らに問うべき時である。

この様に、県医師会は郡市医から自らの“再生”に期待の目を向けられ、日医からも目に見える“会員増”を要請されている。今、まさに県医師会は３層構造の中間ではなく、中心に存在することを肝に銘じ、明確な近未来像を構築するために会員増による“組織強化”に努めなければならない。

２　新会長の方針

2024年６月９日県医師会定例代議員会が開催され、会長立候補者２名の中で投票が行われた。誰もが予測し得ない同数結果となり、再投票が行われた。その結果も１票差と言う僅差で石塚尋朗先生が会長に選任・選定された。奇跡的な数字を示した投票結果は両候補ともに甲乙つけ難い格式と先見の明の持ち主であったことを考えると、医師会に“危険な一歩”を示したのではなく、当県医師会の人材の豊富さを証明したものとして安堵している。しかし、人材が豊富でも、結果を残さなければ、“宝の持ち腐れ”であり、“看板に偽りあり”との非難の的になることは自明の理である。

今後は、新会長の下、役員一同、団結して郡市医と日医の要望に応え、“組織強化”に明確な結果を出せるように実行していく。その第１歩は郡市医の活性化であり、各医師会の実態調査並びに、施策を把握し、他医師会の成功事例等を紹介することで情報共有に努めていく。その結果、組織が強化されることに合わせて会員増に繋がるものと期待する。更に、郡市医と県医師会の緊密な連携を日医へ直結させ、３層一体化を揺るぎないものへ構築するように会長を補佐し、邁進する所存である。

そのための具体的な方策として、“組織強化”と深く関係する「地域医療の充実」と「医療政策の検討」について詳述し、多くの先生方のご理解とご協力を得たい。

３　地域医療の充実

医師は聖職を目指したときから主観と客観を問わず、地域医療への貢献を宿命づけられている。医師は職務を遂行する中で、その目的を達成するためには個人では叶わず、職員、同僚、多職種と連携しながら社会医療と言う形で実践している。地域医療は住民が求める医療全てが含まれ、個人での対応は時間的かつ専門的に不可能であり、医師会が組織として全てに対応している。医師会は国から認められた唯一の医師集団であり、全ての県と郡市に配置され、地域の期待に応えて適切な医療の提供に努めている。

地域医療の運営は医師会の存在無くしてあり得ず、医師であれば、当然医師会へ入会し、地域医療活動に参加するものである。その結果、医師会会員は順調に増加し、医師個人の地域医療への貢献度も拡大化されることになる。しかし、現状では予想通りの会員増は認められず、「医師会は何をしている組織ですか？」という基本的な問いかけや、「医師会に入会すると何のメリットがありますか？」という医師本来の大目的からかけ離れたものまで長年に渡り疑問と要求が繰り返されてきた。医師会は急務として優しく入会を促し、大きく育てる方法を取り入れ、会員増を目指している。わたくしは医師の理念を呼び起こした正攻法的手法にて入会促進と活動参加を訴えかけたい。

地域医療は住民の要求と医療の進歩に合わせ、満足係数は増加する一方である。それに対応する医師会活力が鈍化したのでは、地域医療の充実度は低下するのみならず、医師会と医師個人への信頼度は急降下することになる。この“負のスパイラル”を断ち切り、好転させるには再三再四繰り返すが、「医師への成り立ち」と「地域医療への貢献」という医師の本分を再認識し、医師会と言う組織で地域医療の充実に努めることである。地域医療の充実は医師会の成長なくしてなし得ず、医師会の充実は会員の増強なくして成り立たない。

さらに、地域医療の充実度を高めるには、住民からの信頼と協力が必要になる。これは地域の医療活動を円滑に進めるためだけでなく、現在疲弊している多くの医療機関の再構

築のためにも重要である。現在の日本の経済力（Economy）は低迷化し、少子高齢化、生産年齢人口減少などの社会的要因（Society）も医療分野には向かい風である。その中でも技術の進歩（Technology）は著しく、細分化、専門化など追従していくことも容易ではない。医師会はこの困難を極める社会変化の中でも医療の現場を預かる身として、主導的な立場に立たなければならない。そのため次項に述べるが、国の医療政策（Politics）を検討し、行政に意見する政治家と連携して対策を講ずることが求められる。これらは全て医師会の“組織強化”の下に適切に運営されるが、その中心に存在する県医師会の役割は特に重要である。

４　医療政策検討

医療は国策であり、厚労省、財務省と内閣が施策と医療予算を決定し、上意下達の流れで運営されている。医師は地域の医療と言うライフラインを守り、かつ継続する貴重な実践部隊として重宝されているように見えるが、“飴と鞭”の中、必ずしも適切な医療政策を提供されてきたとは言えない。限られた日本の経済力の中で、医療に意見する医療外の団体の考えは必ずしも生命に直結する医療側の提言を容認するとは限らず、期待の扉には再三再四跳ね飛ばされてきた。そのような中、国策に意見する政治家との連携を強化し、政治力による強行突破を試みてきたが、これさえも微々たる成果に終始してきた。今回の診療報酬改定結果はその象徴であり、日医の言うプラス改定と内容では適正な医療を実践するにも充分とは言い難く、廃院する医師や気力減退した医師は計りしれない。

この様な状況下で日医が命題としたのが会員増による“組織強化”である。これこそが医師同士の連帯を強化し、政治家との協調体制を発展させ、期待の扉を開くことを可能とする原点復帰の策となる。しかし、“言うは易く行うは難し”であるが、これを進めなければ、国が主導するデスク上の医療政策に対し、日医が提案する現場から生まれた医療体制を構築することが永遠に不可能になる。

これら国と日医のレベルでの医療政策検討以外に各地域特有の諸問題も多々存在し、それ等は県医師会と郡市医が県並びに市町村と個別に検討されなければならない。医療側は県医師会が責任主体となり、基本部分においては全県レベルでの標準化に努めるべきである。しかし、郡市医こそが当該地域の医療担当者であり、医療圏レベルでの検討を加味し、早急に確実な体制作りを進めなければならない。これらの解決にも政治家の関与は必須であり、県医師会から選出された星北斗参議院議員をはじめ、各地域選出の国会議員、県会議員と市町村会議員との連携を深め、医療情報を共有しながら県内７医療圏の適正な医療体制の構築に勤しむべきである。この医療政策検討という積極的かつ拡大的な県医師会活動は現状の心身共に疲弊している勤務医と開業医に新たな近未来医療への期待を喚起するものであり、医師会活動の活性化と“組織強化”へ向かうものと捉え、強く提言する。

因みに、会津四方部医師会連絡協議会では今年６月30日の会津医学会において医療側と政治家の間でシンポジウムを開催し、医療政策検討の第１歩を踏み出した。会津３大病院、喜多方、両沼、南会津の地域主幹病院院長と診療所代表がシンポジストを務め、政治家との協調を求めてそれぞれの担当する医療分野の不都合点を問題提起した。それに応える形で、政権与党である自民党から国会議員、県会議員、会津若松市会議員の10数名が政治的解決の観点から意見を述べ、活発な議論が交わされた。その中で、本県選出の星北斗参議院議員は都合により欠席されたが、ビデオメッセージにより、医療活動の成果の一端を

披露された。その後の懇談会にも全政治家が出席し、面と面で意見交換を行うことができた。これを契機に会津医療圏の適正な医療体制構築に協力・連携していくことを確約した。

5　まとめ

“組織強化”の必要性と有益性について述べてきたが、一朝一夕には成し得ない。“会員のために”という地道な医師会活動がプラススパイラルを生じさせ、明るい近未来像へ到達することを期待していたが、結果が見えてこなければマイナススパイラルに陥り、不毛の結果のみ目の前に残ることも視野に入れてきた。しかし、このような甘い流れではなく、この度の新会長の誕生に併せて、活動方針の基本となる“組織強化”を明確化し、過去の反省を基に、飛躍的な発展を目指すために私見を述べた。

地域医療の充実に影響を及ぼす外部要因はＰＥＴＳ（Politics、Economy、Technology、Society）である。紙面の都合上個々について詳細に述べることは避けるが、今回は政治家との連携による地域医療の充実を詳細に述べた。政治あるいは政治家を遠ざける医師は数多いが、診療報酬改定、地域医療構想、地域包括ケアシステム、働き方改革、コロナ感染症関連法などは政治（Politics）そのものである。政治は理解されるべきであり、政治家は活用されるべきであることを方策として提言した。

最後に、医師は医療人として幅広く地域医療体制の適正化に関心を払うべきであり、不平ではなく、不満を述べるべきである。県医師会は地域医療の充実のために会員増による“組織強化”に努め、個人医師の組織的代弁者としての役割を政治家と連携しながら効率的かつ効果的に果たしていくことを強調して稿を閉じる。